ればいけないものにあわなければ解決できない。「ただ念仏」の世界にあわなければ解決つかない。私たちを生かしめている大いなるいのちの世界。そこに目が覚めたときに生の問題が解決する。本願念仏は生死を超えた本願のまこと。生きる死ぬを超えた大いなる世界。そういうものに目が覚めるかということ。

滅びを生きる希望

滅びの人生を生きていく希望とは何か。それはどう生きたらいいのかという処世術ではない。我々の我執を超えた真実の、どうしてもなければいけないものにであうことが大切。しかし私たちは、世の中を自分のエゴを中心に、「活」の思いでいのちを切って見るので、与えられている生き死にを超えた大いなるいのちの世界がなかなか見えない。

不死がえられる

釈尊は「活」は恵まれていたが行きづまった。三十五歳でさとりを開いた時に「法が至り届いた」「不死がえられた」とおっしゃった。不死がえられたとは無量寿のいのちに目が覚めました、二度と迷いの世界にかえりませんということ。真宗では即得往生という。ちっぽけなエゴの世界に目が覚めて大いなるいのちの世界に南無して生きる人生がひらかれる。

謝花勝一さんは私にたくさんのことを教えて下さった(略)。こういうところに具体的に人間が生死を超えてゆくことがあるんだろうなということを思わされます。

志慶眞文雄先生

闇夜に先生は光を照らし続けて下さった。動けるようになって広島仏教学院に行くことを決心。そこで岩崎先生と出逢いました。

お医者さまは、元気に動いていることが不思議とおっしゃる。確かに今でも数値は悪いんですが、きっと眠っていた細胞が応援してくれているのだと思います。

志慶眞先生と仏法との出あい

(水鶴)以前の私は、ほとんど寝たきりで、なんのために生きるのか、追いつめられてお先真っ暗でした。その時『中国新聞』で志慶眞先生の記事を見て連絡、手紙のやりとりで少しずつ仏法への目を開いてもらいました。全くの生きているべき人間ではありませんでした。でも多くの人たちに育てていただいて、その人たちのエネルギーを注いでいただいて今があります。

悲しいときにそのことを受け入れる、大丈夫なんだって。仏さまがいてくださることを忘れないようにしています。

病気になる原因は性格

(佐田尾)お二人がやりとりした手紙の中身について聞かせていただけますか?

(志慶眞)最初のたえ(釋水鶴)さんからの手紙は、「病気になるのは性格が悪いからだと人に言われ、自分もなんとかしたいと思っている、どうしたらその性格が直るんですか」という内容でした。でも、悪い性格は直りません(笑)。それは身に染みて思う。その悪い性格を仏さまに懺悔するのが浄土真宗ですよとお返事を書きました。私の中に煩悩があるのではない。百%煩悩が私。そんな私でも仏さまがいるから生きてゆけるのです。

(水鶴)そういわれても、仏法を知らなかった私には意味が全く分かりませんでした。だから色んな疑問をそのままぶつけました。

念仏ばあさんになりなさい

(佐田尾)志慶眞さんは、水鶴さんに「念仏ばあさんになりなさい」とおっしゃったそうですが。その意味は?(志慶眞)先程申しましたように、「活」のレベルで念仏を称えるということは、あれもこれもの念仏。ないよりあった方がいいというレベルの念仏で